

SNW対話イン佐賀大 2013 事後アンケート結果

(平成 25 年 12 月 3 日開催)

纏め：廣 陽二

1. アンケート回答者 17 名

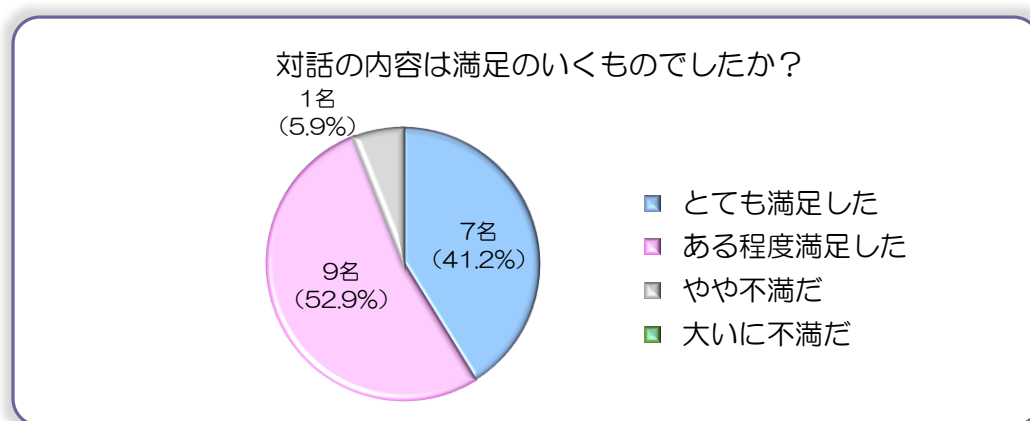
(内訳)	・4 年	4 名
	・M1	7 名
	・M2	6 名

2. 対話会について

(1) 対話の内容は満足のいくものでしたか？その理由は？

とても満足した	7 名 (41.2%)
ある程度満足した	9 名 (52.9%)
やや不満だ	1 名 (5.9%)
大いに不満だ	0 名 (0.0%)

約9割が「とても満足した」又は「ある程度満足した」と回答している。「やや不満だ」(1名)の回答理由は「周りの学生の意欲があまり感じられなかった」であり、「大いに不満だ」の回答はなかった。



<理由>

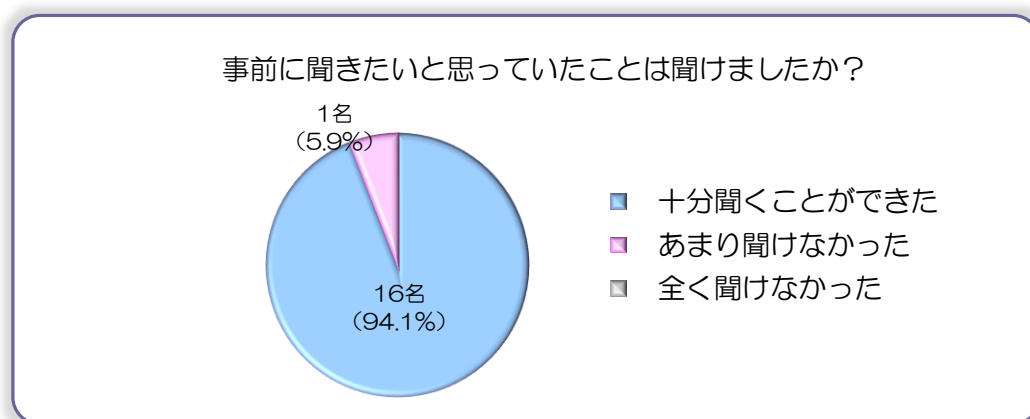
- 原発は必要であると再確認できた。
- ・ 質問した内容を答えてもらうだけでなく、派生していろいろな話を聞くことができた。
- ・ 専門家から直に話を聞けたから。
- ・ 疑問が解消したため。
- ・ 原子力について知らない部分を深く詳しく聞くことができたから。
- ・ 原子力発電の基礎というテーマで対話したが、わからないこと、質問したことを丁寧に教えてもらったので。
- ・ 原発メーカー、運転する側の人たちの意見はメディアを通して聞くことはなかなかできないが、今回の対話でしっかりと聞くことができて大変満足している。

- ・ 原子力について専門的な意見が聞けたし、やはり原子力発電所の稼働は必要だと思った。
 - ・ 知識を増やすことができた。
 - ・ あまり聞けない内容の話を聞くことができた。
- ・ 周りの学生の意欲があまり感じられなかった。

(2) 事前に聞きたいと思っていたことは聞けましたか？

十分聞くことができた	16名 (94.1%)
あまり聞けなかった	1名 (5.9%)
全く聞けなかった	0名 (0.0%)

1名を除いて「十分聞くことができた」と答えている。



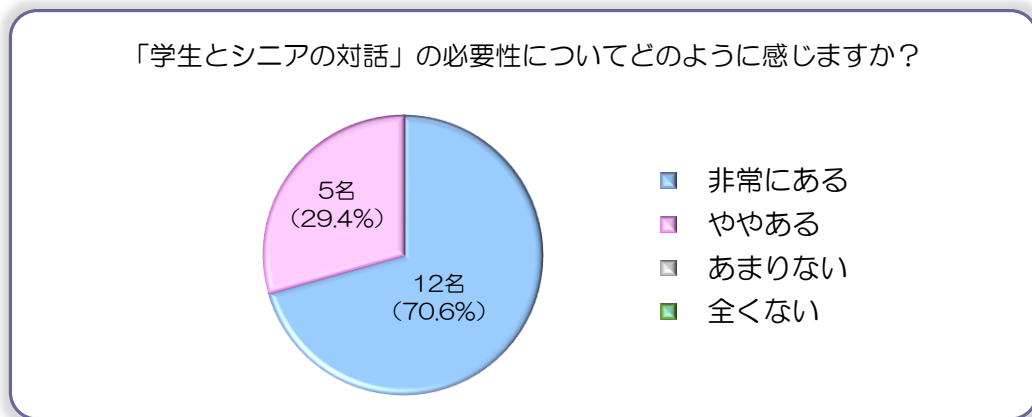
（３）今回の対話で得られたことは何ですか？

- ・ 今後の日本のエネルギー対策の課題がわかった。
 - ・ 原発のしくみ、福島での事故の原因、事故の際、大きな被害に合わなかったところの取り組み（なぜ防げたのか）、日本が放射性物質についてどのような処理を行なっているかなどの知識。
 - ・ 原子力に対する考え方、現状。
 - ・ 廃棄物処理に関する知識。
 - ・ メディアにはない、より具体的な話が聞けた。
 - ・ 日本と海外での原子力発電の現状。
 - ・ 原発問題に関する知識。
 - ・ もっと原子力についての知識を深めなければならないということ。
 - ・ 原子力発電の必要性。原子力発電が他の発電に比べ、いかに効率的でエコかわかり、今後の日本には欠かせないものだと思う。
 - ・ これまでも原発のことについて自分なりに学んだつもりだったが、更なる知識や考え方を得ることができた。
 - ・ 疑問に思ったことや意見、考えを積極的に話し合うことは、自分の知識を広げるために大切なことだと実感した。
 - ・ 原子力発電所の基礎から事故原因や廃棄物処理まで幅広く知ることができた。
 - ・ テレビなどのメディアから、ただ与えられるだけの情報ではなく、こうして話し合いをすることによって考え方を広げることができた。
 - ・ 放射性廃棄物の処理が思っていたより安全であること。
 - ・ 基礎から実例まで、原子力発電とはどういったものかということ。
 - ・ 今のエネルギー事情についての理解。

(4)「学生とシニアの対話」の必要性についてどのように感じますか？その理由は？

非常にある	12名 (70.6%)
ややある	5名 (29.4%)
あまりない	0名 (0.0%)
全くない	0名 (0.0%)

「非常にある」と「ややある」を加えると100%になり、「あまりない」、「全くない」の回答者はなかった。



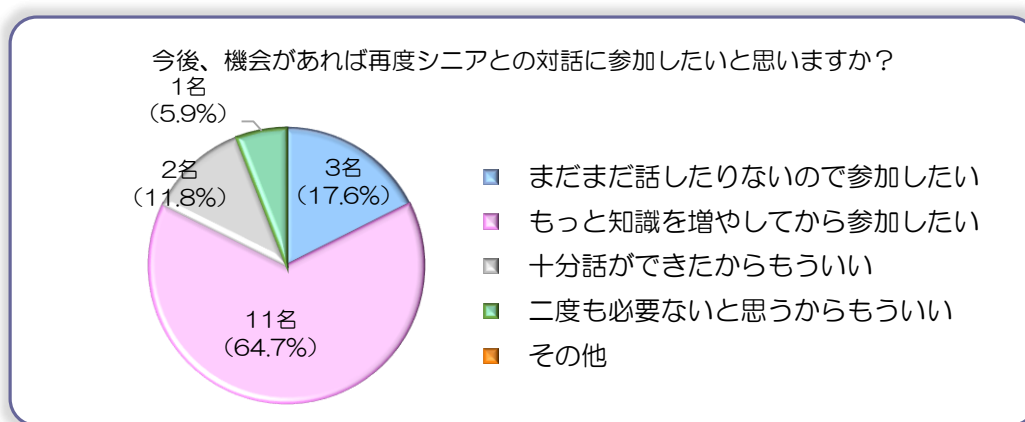
<理由>

- 自分と価値観の違う人と話すと学べることが多い。学生よりはるかに物を知っているので些細な発言も参考にすべきだと思う。
 - ・ 実際に現場で長年働いてこられた方の考え方を若い人に受け継がせることは大事だから。
 - ・ いろいろ興味深い話が聞けたため。
 - ・ 世間は原子力の事をほとんど理解しておらず、メディアの情報を信じ誤解している部分が多いから。
 - ・ 将来の日本を担う学生が、その分野の専門のシニアの方々に直接話を聞けるととても良い機会だと思う。
 - ・ 実際に仕事をしてきた人の話を聞くことで、新たなものの見方もできるようになると思うから。
 - ・ エネルギー事情・現状を知るため。
 - ・ メディアの情報に踊らされず、原子力について正しい知識を身につけた上で、今後のエネルギー問題を考えなければならないので必要だと感じる。
 - ・ マスメディアでは、原子力について、一部または一方向についてのみ報じられることが多く、対話を通じて原子力のメリット、デメリットについて正しく知ることができるため。
 - ・ 長年、その分野の第一線で活躍された方なので、学生の時に対話できるのは今後に大きな影響が出ると思うから。
 - ・ 若い人に原子力について伝える必要があると思うから。
 - ・ 学生のうちに知識を身につけておく必要があるため。

(5) 今後、機会があれば再度シニアとの対話に参加したいと思いますか？

まだまだ話したりないので参加したい	3名 (17.6%)
もっと知識を増やしてから参加したい	11名 (64.7%)
十分話ができたらもういい	2名 (11.8%)
二度も必要ないと思うからもういい	1名 (5.9%)
その他	0名 (0.0%)

「まだまだ話したりないので参加したい」が 17.6%、「もっと知識を増やしてから参加したい」が 64.7%、「十分話ができたらもういい」が 11.8%、「二度も必要ないと思うからもういい」が 5.9%であった。

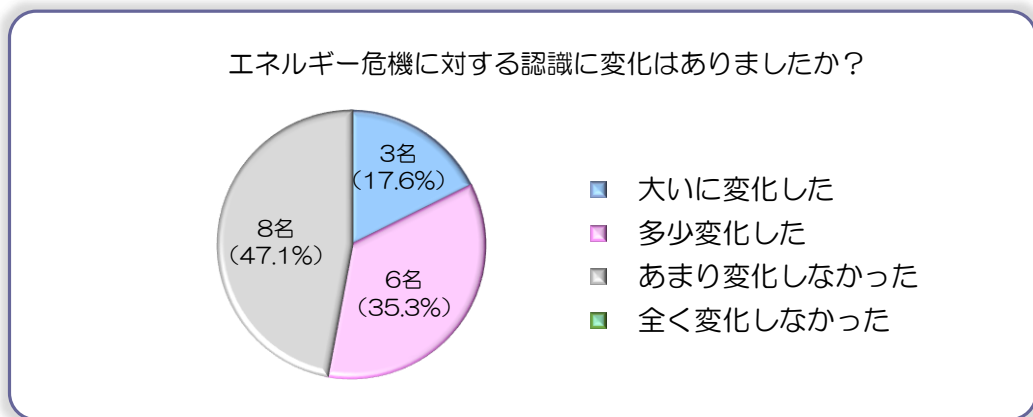


(6) エネルギー危機に対する認識に変化はありましたか？その理由は？

大いに变化した 3名 (17.6%)
多少变化した 6名 (35.3%)
あまり变化しなかった 8名 (47.1%)
全く变化しなかった 0名 (0.0%)

約半数が「大いに变化した」又は「多少变化した」と回答している。

また、「あまり变化しなかった」8名の回答者は、7名が“以前から危機を認識していたから”と同様の意見、1名が空欄でであった。



<理由>

- ・ ここで原発を止めるべきではない。原発を止めたとして、それを補うには火力だったら、石油をこれ以上使うには抵抗がある。太陽光、風力なら広大な面積が必要だから現実的ではない。しかもウランは、永久的に使うことができるし、安全性も問題はないと感じた。
 - ・ 日本のおかれている現状を知り、危機感を持った。
 - ・ 日本が石油に依存する危険性を感じたから。
 - ・ もともと日本のエネルギー問題に関して、原発運転は必要だと思っていたから、話を聞いてやはり運転するべきだと改めて思った。
 - ・ 原子力発電を停止している分、火力で補っているが、それは無理に維持していることを知った。また、それにより電気代が上がると企業に大きな打撃となり、日本の経済は下落してしまうことに大きな危機感を感じた。
 - ・ 先日も原子力についての講演があったので、その時に少しは知識を増やすことができたが、今回はディスカッションもあったので自分が気付かなかったことも知ることができたから。
 - ・ 日本は大量に燃料を購入していて、そのせいで赤字になっている。

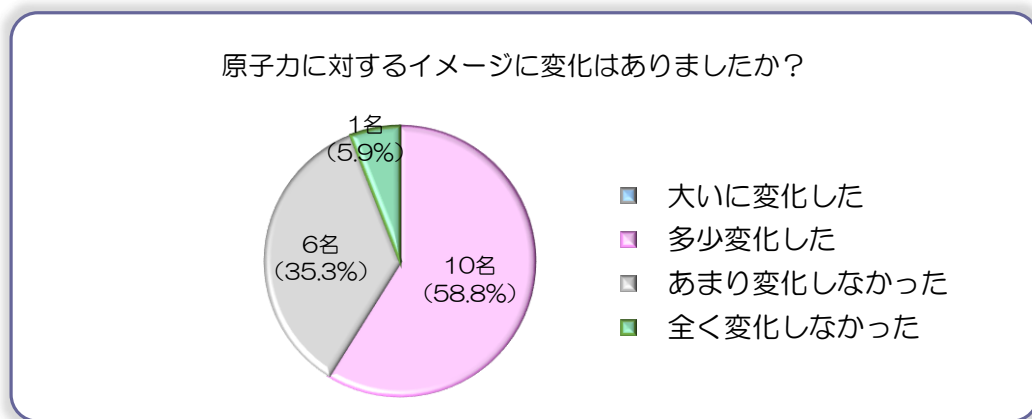
(7) 原子力に対するイメージに変化はありましたか？その理由は？

大いに变化した 0名 (0.0%)
多少变化した 10名 (58.8%)
あまり变化しなかった 6名 (35.3%)
全く变化しなかった 1名 (5.9%)

「大いに变化した」の回答はなく、「多少变化した」の回答が一番多く半数を超える。

「あまり变化しなかった」と回答した6名のうち、5名は“もともと原発賛成派だったため”と同様の意見、1名は“放射性物質については人の手に負えず、地下に埋めるしかない。「正しく使えば」と言われるが危険であるイメージは変わらなかった”であった。

「全く变化しなかった」と回答した1名の理由は“自分の考え方と話の内容が同じだと感じたから”であった。



<理由>

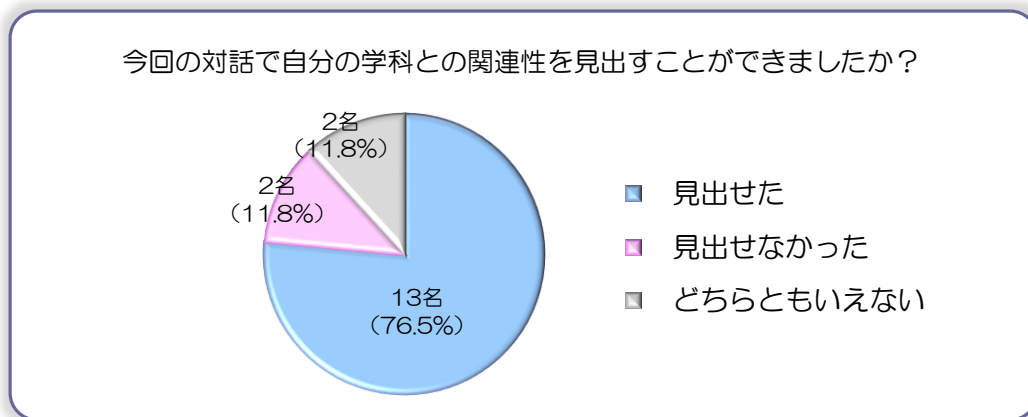
- ・ 様々な情報が交差しているので何が正しいのかわからなくなっていた。はっきりとした数字を出して説明してもらって、今まで疑問に思っていたことを解消することができた。
 - ・ 高レベル廃棄物処理に関して、いろいろと考えて研究して行うようにしているのが理解できたため。
 - ・ 廃棄物処理に対するネガティブなイメージがある程度払拭されたから。
 - ・ 福島原発に関する話ばかり調べていたので、他の原発に関することも聞けたので。
 - ・ 安全性についてのイメージは変化した。
 - ・ 対話や事前に配布されていた資料から、放射線による危険性は低く、さらに実際、福島の場合放射線による死者がいなかったことを聞き、原子力に対する危険なイメージが変わった。
 - ・ 放射性廃棄物の地層処分の安全性を知りイメージが変化した。
 - ・ 意外と環境に良いと思った。
- ・ 放射性廃棄物については、人の手に負えず地下に埋めるしかない。「正しく使えば」と言われるが、危険であるイメージは変わらなかった。
 - ・ あまり気にしていなかったなので、今回のことでイメージができた。

(8) 今回の対話で自分の学科との関連性を見出すことができましたか？その理由は？

見出せた 13名 (76.5%)
見出せなかった 2名 (11.8%)
どちらともいえない 2名 (11.8%)

「見出せた」の回答者が8割近くを占めた。

「見出せなかった」と回答した2名は、“対話の中でそのような話題はなかった”、“流体とかかわる話ではなかったため”であり、「どちらともいえない」と回答した2名は、1名が“熱力学の知識などが当然必要になってくるのだろうが詳しいところまではわからなかった”で、1名は“空欄”であった。



<理由>

- ・ 原発を設計する上で機械工学は重要だから。
 - ・ より効率的で安全なものを設計するのは機械に携わる人の仕事だから責任を感じた。
 - ・ 工学系なので、実際にプラント設計に関わる可能性もある。
 - ・ エネルギーや安全なモノづくりが密接に関係していると感じたから。
 - ・ 就職先がプラントメーカーだから。
 - ・ 理系は専門の知識を培っていくので、その知識を深めて理論的に考える必要があると考えるから。
 - ・ 原子炉の冷却やタービンについては伝熱の研究をしているから大いに関連性があると思った。
 - ・ 「冷却」など専門（熱）に関するトピックだった。
 - ・ 機械科は原子力発電の設計という点で特に関係しており、原子力について講義も受けたことがあり身近に感じた。
 - ・ そういう職場に入っている人もいるから。
 - ・ モノづくりの立場から、日本のエネルギー問題に関わっていこうと思った。
- ・ 対話の中でそのような話題はなかった。
 - ・ 流体と関わる話ではなかったため。
 - ・ 熱力学の知識などが当然必要になってくるのだろうが、詳しいところまではわからなかった。

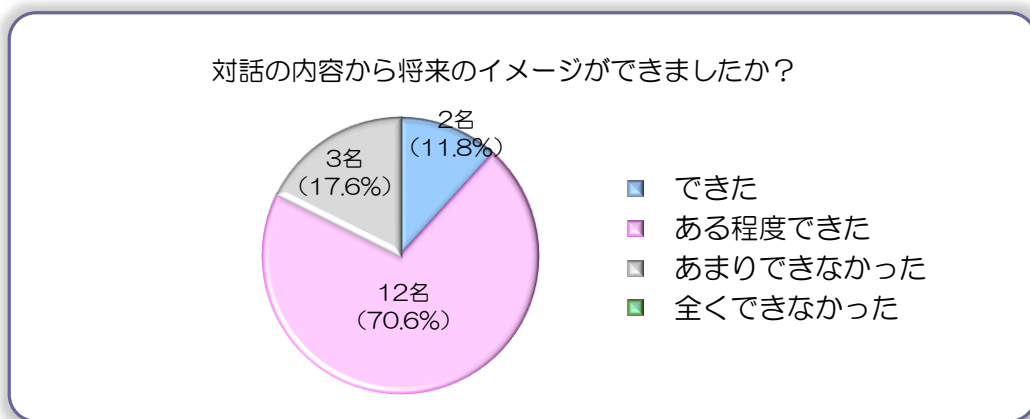
(9) 対話の内容から将来のイメージができましたか？その理由は？

できた 2名 (11.8%)
ある程度できた 12名 (70.6%)
あまりできなかった 3名 (17.6%)
全くできなかった 0名 (0.0%)

「できた」と「ある程度できた」を加えると8割を超える。

「あまりできなかった」の3名は、“そのような話はなかった”、“まだ情報と知識が足りないと感じるため”、“自分自身がどういう方向に進むのかまだわからないので”であった。

また、「全くできなかった」の回答はなかった。



<理由>

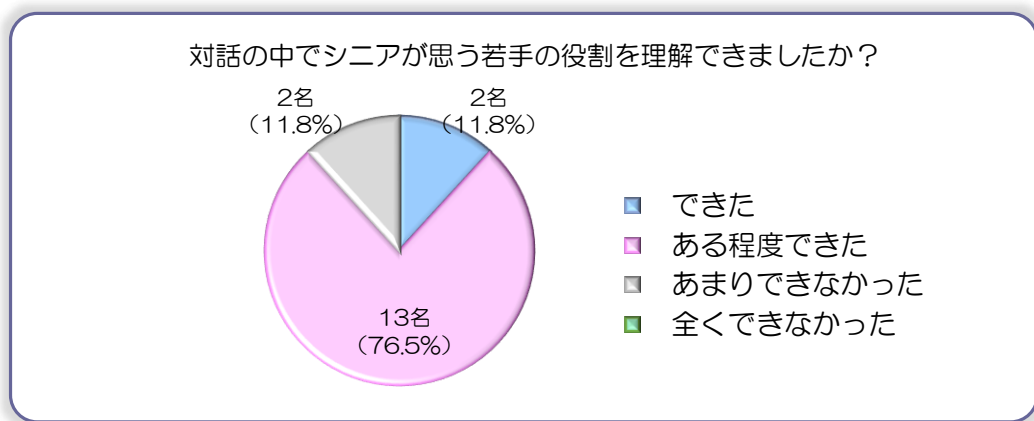
- ・ 原発に関して言うと、再稼働するべきだと思う。メディアでは原発は危険だと言われているが、具体的に何が危険で、どのような対策をとっているのかを聞き、そう思った。
 - ・ 福島事故後、安全性が再度見直されたこと。高レベル廃棄物処理の今後について聞くことができて、原子力が再び使われることをイメージした。
 - ・ 処理に関しては、将来こうすれば安全というのがわかったから。
 - ・ 原子力エネルギーの必要性を感じた。
 - ・ 原子力自体の危険性よりも原子力が無いことで電力不足となる方がより大きな危険を伴うのではないかと感じた。将来のために原子力の必要性をもっと重視して考えなければならないと思う。
 - ・ 火力発電の燃料によって貿易赤字が拡大している現状から、原子力発電が必要とされてくると思った。
 - ・ 放射性廃棄物は責任を持って処理するということ。
 - ・ このままだと日本のお金が海外へ流出し続けるため、日本の財力がなくなってしまう。
- ・ 重工会社でジェットエンジンを設計したい。
 - ・ そのような話はなかった。
 - ・ まだ情報と知識が足りないと感じるため。

(10) 対話の中でシニアが思う若手の役割を理解できましたか？またその理由は？

できた 2名 (11.8%)
ある程度できた 13名 (76.5%)
あまりできなかった 2名 (11.8%)
全くできなかった 0名 (0.0%)

約9割が「できた」、「ある程度できた」と回答している。

「あまりできなかった」の2名は“今、選択を迫られているものを決めるのは若い人たちだからもっと知識をつけ、正しい選択をできるようにしないといけないと話があった、もっとその話について聞きたかった”、“そのような話はなかった”であった。



<理由>

- ・ メディアに踊らされず、正しい知識を身につけることが大事である。
 - ・ 今、選択を迫られているものを決めるのは若い人たちだから、もっと知識をつけ正しい選択ができるようにしないといけないと話された、もっとその話について聞きたかった。
 - ・ 若手の人自身が自身のことと考え、原子力が必要なのか、使う場合はどう安全に使うかというのを国民全員で考えるように広めること。
 - ・ シニアの方々が我々に必要となる知識の必要性和重要性を教えてくださいましたから。
 - ・ これからの日本を背負う若い人には、エネルギー問題に目を向けて本当に原子力エネルギーなしでやっていけるのか真剣に考えないといけないと言われたから。
 - ・ 戦後から現在にわたるエネルギー消費量の変化を見せてもらい、私たち若手は大量のエネルギーの下で生活していることが理解できた。そして原子力を無くすということは、今の生活レベルを30～40年前に戻すことを自覚しなければならないと理解した。
 - ・ 原子力に過剰に反応せず、冷静に日本のエネルギーについて考えていかないといけないと思った。
 - ・ 循環型社会の実現をモノづくりの立場から実現すること。
- ・ そのような話はなかった。

(11)自分が思っていた若手の役割とシニアの考えは違いましたか？どのような違いがありましたか？また、シニアの考えを聞くことで、自分の考えに変化はありましたか？できるだけ詳しくお答えください。

- ・ 「原発は必要である」という大まかな考えは同じだった。しかし、「原発反対運動する人たちはどこから資金調達するのか」など、具体的なことはわかっていなかった。なお、自分の考えに変化はない。
 - ・ 核を保有していない国で、日本が世界で唯一放射性物質の処理を許可されているので、この権利は利用すべき。石油は製品を作れるが、放射性物質からはエネルギーを取り出すことしかできない。石油は後世のために残さないといけない。
 - ・ 考え方の違いについては、シニアの方から知識、考え方を引き継ぎ、若手がどうしていくか考えるというように考えていたので、そこまで違いはなかったと思う。自分の考えの変化も、原子力がないとエネルギー不足になると考えていたので、原子力が必要だという点では変化はなかったが、そこにいろいろな根拠が加わることができた。
 - ・ 自分の考えとシニアの考えは一致しているように感じた。偏見のない正しい知識が大切なのだと、より強く思うようになった。
 - ・ あまり考えは違わなかったが、シニアの方々の意見を活かしていきたいと思った。
 - ・ まず原子力を知ることが大事だと感じた。しかし、一方的な意見だけでなく様々な立場の意見を聞きたいとも思った。
 - ・ あまり大きな違いは感じなかったが、プルトニウムの製品の技術を手放すのは日本にとって痛手ということは知らず、考え方が大きく変化した。
 - ・ 私メディアから伝えられることは、原子力の負の面ばかりだと思っていた。今回の対話で放射線の危険性、現在までのエネルギー消費の移り変わり、今後の原子力発電が無の場合の打撃について知ることができた。私も原子力は必要ではないかと思っていたので、今回の対話でよりその考えが明確になった。
 - ・ 考え方にあまり変化はなかったが、原子力について正しく知識を得ることができたと思う。
 - ・ 今回、来られたシニアの方も全員原発は必要だと考えられていて、私も必要だと思っていたので方向性は変わらなかったが、理解度は変わったと思う。
 - ・ 放射性廃棄物の処理は自分が思っているより安全であり、責任を持って処理するということ。
 - ・ 上の人々が決めるもので自分の考えを持っても仕方ないと思っていたが、実際に話を聞いてみると、とてもそのような考えではいけないと思った。
 - ・ 日本には資源がないため、技術力で他国と競っていくしかないということに共感した。
- ・ 特にない。
 - ・ あまりなかった。

(12) 本企画を通して全体の感想・意見等があれば自由に書いてください。

- ・ もう1時間欲しかった。
 - ・ 原子力発電についての知識がただだけでなく、専門家の方に自分の意見を言う機会があってよかったと思う。私は最後の発表はしていないが、大企業の重役を務めていた人の前で発表するのは難しいことだと感じた。また、このような企画があれば進んで参加したいと思う。
 - ・ 普段、そこまで原子力について考える機会がなかったので、このような考える機会を与えていただき有意義な時間を過ごすことができた。
 - ・ 理系の学生は比較的賛成の立場が多いと感じるので、市民の方々や文系の学生など知識をあまり取り入れる機会のない人に向けて行なうのが良いと思う。
 - ・ 今までおおまかにしか考えていなかったエネルギー問題や、原発の事故について真剣に考え、普段体験できないようなシニアの方との話し合いを通して、また新たに知識を得ることができ、有意義な時間を過ごすことができた。
 - ・ もっとこのような企画を増やしていき、世間の原子力エネルギーに関する知識を広めていく必要があると思う。
 - ・ 来年、再来年も開催されるなら、ぜひ参加したい。
 - ・ こういうシニアとの対話というものは初めてだったが、シニアの人たちが私たちが発言しやすいように気を配ってくださったので、のびのびと対話することができたと思う
 - ・ 原子力に対する知識がまだ少ないとおもった。
 - ・ 原子力についてかなり詳しく教えていただき、ニュースなどで流れている情報ではなく、実際に働いていた方の話で、原子力というものについて認識が深まった。